

フランスには Miviludes という対カルト対策機関があることは既に述べた。今回は当機関の 2021 年の活動報告書を見てみたい。

カルトは今や宗教団体や宗教思想に限らず、多種多様な形態を示している。したがって、カルトに対する危機感がライセンスと直接つながるわけではないが無関係でもなく、カルト運動の傾向やどういった点が問題視されているかを知っておくことは、布教の観点から重要だろう。

この機関には 2021 年、4,020 件の通報があった。通報と訳しているが、使用されている Saisine という言葉には、ある運動や行為、個人とカルト的要素の関連性に関する質問も含まれる。通報数は 2015 年と比べると 86.1%、2020 年からは 33.6% 増加している。

2020 年 7 月以降、内務省の管轄に入っている同委員会は、連帯省、保健省、教育省、司法省などからアドバイザーを迎え、より効果的で包括的な活動をめざしている。通報数の増加は、この機関が社会的に認知されてきているからとも言えるが、コロナ禍の影響も強く指摘されている。「ガスのような」という形容詞を使い、コロナ禍で自由な活動を奪われ不安や不信感が募った時代に、カルト運動がインターネットを利用し変幻自在でつかみどころがない存在になっていると警鐘を鳴らしている。ソーシャルネットワークサービスを使う指導者を「グル 2.0」(第二世代のグル)と呼び、仮想空間を使って被害者を現実世界で苦しめているとしている。また、子どもに関する通報も 396 件あったという。2021 年に扱われた主な通報の内訳は以下のようになっている。

- マルチ商法 86 件
- 職業講習 87 件
- コーチングを含む人間形成講座 173 件
- 陰謀論と反ワクチン運動 148 件
- 医療行為 744 件 (うち代替医療 520 件)
- 疑似科学 35 件
- 瞑想とヨガ 116 件
- エコロジー 27 件
- ニューエージ運動 65 件
- スピリチュアリティ、シャーマニズム 159 件
- キリスト教系運動 293 件
- 仏教系運動 26 件
- ヒンドゥー教系運動 16 件
- イスラム教系運動 10 件
- ユダヤ教系運動 3 件
- エホバの証人 99 件
- 人智学 31 件
- サイエントロジー 33 件

また、特に医療問題で顕著だが、特定の指導者や組織ではなく、未承認の治療行為などのメソッドが通報対象になることもある。代替医療そのものが危険視されることもあるが、通常医

療を排除する行動も含まれる。

宗教団体の多くは、1901 年のアソシエーション法や 1905 年の政教分離法にのっとって合法的に設立されている場合が多い。税制優遇など国家が危険な宗教団体を間接的に援助する形になることを避けるため、2021 年以降宗教団体に関する制限が強化されている。

こうしたカルト団体を見分けるための 10 の基準は以前に述べたので省略するが、被害を受ける過程を 4 つに段階分けしている。第 1 段階は関心を持たせること、第 2 段階は人格を破壊すること、第 3 段階は人格を再構築すること、第 4 段階はそれを強化することである。場合によっては反論が許されなくなったり、罰則が与えられることもある。こうして個人や団体への傾倒が強くなり、完全な従属体制が作られる。この精神的な服従がカルト行為の大きなポイントであり、分離主義 (séparatisme) や陰謀主義 (complotisme)、サバイバリズム (survivalisme)、過激化 (radicalisation) といったその他の問題行動と区別される点である。それらの場合でも無条件にある信条に服従することはあるが、影響を受けているだけでは自己決定力や判断力、自己批判の力が失われたとは言えない。

陰謀論は、その考え自体ではなく、それによる行動が暴力や憎しみ、差別といった形で個人に悪影響を及ぼす場合に問題視される。このカテゴリーでは、クリスティアン・タル・シャラー (Christian TAL SCHALLER) が、疑わしい医療思想の持主として名前を挙げられている。彼はコロナ禍の際に、YouTube 上でワクチン陰謀論を唱えていたが、それ以前の 2016 年、彼の講習会に参加した目の不自由な息子が 30 日の断食を促され、不安定になった状態で金銭の要求をされたとの通報が届いて、同委員会がその動きを注視している。

サバイバリズムは、自然災害などに備え技術や対策を練っておくことが主眼で、基本的には危険とは言えない。しかし、過激な例としてアメリカ発祥のラムサ (Ramtha) が挙げられている。2008 年にフランスに登場し、バンカーと呼ばれる地下室のようなところに蓄えを備え、終末の世からの救済を目指すグループだが、家族との連絡を途絶えさせたり、高額な講習会を行ったりと危険な要素が含まれているとしている。

分離主義は、多くのカルト教団が使う手法で、両者の線引きは難しいという。いずれにせよ、国や社会の仕組みを拒絶し、仮に社会生活を営んでいても外の世界を悪としてとらえ心理的に社会と断絶する考えである。過激派は、ある個人に精神的に服従することがなくても危険行動にでることがあるが、カルト的要素も含め分離主義や陰謀論など複合的な要素が絡んでいる。

このように随所に示唆深い報告が見られるが、次回もこれについて読み進めたい。

[参照]

MIVILUDES2021 年 活 動 報 告 (2022 年 11 月 3 日

<https://www.miviludes.interieur.gouv.fr/publications-de-la-miviludes/rapports-annuels/rapport-dactiviteC3%A9-2021> 2023 年 12 月 6 日閲覧)。